

令和3年5月27日

市政記者 各位

島原市秘書人事課

秘書班

令和3年6月3日「いのりの日」市長コメントについて

このことについて、下記のとおり送付させていただきますので、記事への掲載等よろしくお願い申し上げます。

記

島原市長 コメント

今年の6月3日「いのりの日」は、平成3年のあの忌まわしい雲仙・普賢岳噴火の大火砕流惨事から30年を迎えます。大火砕流により尊い犠牲となられた44名の方々の無念の思いとご遺族の深い悲しみに思いをいたす時、耐え難い痛惜の念がこみ上げてまいります。ここに謹んで哀悼の誠を捧げます。

さて、今年は、噴火災害から30年の節目を迎えることから、犠牲となられた方々のご遺族等をお招きし、午前10時から仁田団地第一公園で雲仙・普賢岳噴火災害30年犠牲者追悼式を開催いたします。また、追悼式終了後は同会場におきまして、午前11時30分から午後6時まで献花所を設けますとともに、災害発生時刻の午後4時8分には、防災行政無線により市内全域にサイレンを吹鳴いたしますので、黙とうをお願いいたします。

思い起こしますと、平成2年11月、1988年ぶりの噴火に始まり、翌年6月3日に多くの死者・行方不明者を出す大火砕流惨事が発生。私も当時消防団員として共に警戒に当たっており、同志であった消防団員12名の方々をはじめとする尊い人命を失った悲しみ、また、多くの市民がこの先どうなるのか不安に怯えていた光景は、今も深く心に刻まれています。

それから5年にも及ぶ災害の連続と、終息から復興への長い道のりではありましたが、国・県をはじめ全国から多くの皆様の温かいご支援を支えに、市民皆様の「ふるさと島原を蘇らせたい」という強い思いが行政と一体となって、今日の復興を成し遂げることができました。

しかしながら、災害から30年が経過した今、災害の記憶も少しずつ薄らぎつつある

のも事実です。こうした時の流れを踏まえ、島原市では6月3日を「いのりの日」として位置付け、雲仙・普賢岳噴火災害により犠牲になられた方々を慰霊し、噴火災害を風化させることなく、災害教訓を後世に伝えていく決意を新たにする日としております。

当日、市内各小・中学校ではそれぞれ「いのりの日」の集会を開催し、当時の災害や復興の過程などを学ぶこととしておりますが、噴火災害と復興の貴重な経験を通して学んだ「生命・きずな・感謝の心」を子供たちが未来へと伝えてくれるものと確信いたしております。

犠牲となられた方々の尊いご遺志に報いるためにも、島原市のさらなる発展と安全安心なまちづくりに努めるとともに、災害で得た経験と教訓を後世につなげ、地域住民が主体となった実行力のある自主防災組織を再編し、さらなる防災体制の強化を推進してまいります。

また、昨年から世界中で猛威を振るっております新型コロナウイルス感染症により、多くの尊い命が犠牲となっておりますが、私達は雲仙・普賢岳噴火災害を乗り越え復興を果たしてきた経験を活かしながら、この難局を共に乗り越えていきたいと思っておりますので、引き続き皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

問い合わせ

島原市秘書人事課 秘書班

(担当：平田) ☎62-8010